

日本人と働いたタイ人教師の気持ち  
——JENESYS 若手日本語教師受入担当教師へのインタビュー結果——

内山 千尋

## 1. はじめに

筆者は平成 20 年 5 月から国際交流基金の派遣でタイに赴任し、JENESYS 若手日本語教師派遣事業の調整員として国際交流基金バンコク日本文化センターに勤務している。

タイに派遣された若手日本語教師（Young Japanese Language Teachers=以下、YJT）は、教育省基礎教育局（Office of the Basic Education Commission=以下、OBEC）の管轄である公立中等学校に勤務し、タイ人日本語教師とともにチーム・ティーチングで授業を行うことが原則となっている。

YJT からは、調整員である筆者に対し、チーム・ティーチングがうまくいかないとの相談が多くある。具体的には、タイ人日本語教師の授業のやり方が決まっていて日本人の役割が少ない、タイ人日本語教師が忙しくて打合せができない、授業を一人で任されることが多い、などである。

しかし、このような日本人からの悩みはよく耳にするものの、一方のタイ人教師はどのように感じているのかを聞く機会はほとんどない。

そこで、共に働くタイ人日本語教師は YJT に対し何を期待し、何を問題と感じているのかを知るため、受入担当であるタイ人日本語教師に対するインタビュー調査を行った。

## 2. JENESYS 若手日本語教師派遣事業

### 2.1 事業概要

「21 世紀東アジア青少年大交流計画」（英文名：JENESYS Programme=Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths Programme）は、平成 19 年 1 月に開催された第 2 回東アジア首脳会議（EAS）において、大規模な青少年交流を通じたアジアの強固な連帯をめざし、安倍晋三首相（当時）より発表された。

若手日本語教師派遣事業は、この「21 世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS Programme）」の一環として、ASEAN 事務局より国際交流基金が委嘱され、日本から東アジア各国等に日本人青年を派遣し、日本語教育や日本文化紹介活動を通して現地青少年の対日理解を促進し、将来に向けた親日層の基盤作りを行うと同時に、日本の若者の国際理解を図るものである。

平成 20 年より 5 年間の予定で派遣が開始され、タイのほか、ラオス、カンボジア、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、シンガポール、マレーシア、ベトナム、ブルネイ、インド、オーストラリア、ニュージーランドなどに、年間約 50 人の日本人青年が派遣される。

YJT の募集・選定は国際交流基金本部で行われ、応募者の希望や適正を考慮して派遣国が決められる。

## 2.2 タイにおける若手日本語教師派遣事業

タイにおける若手日本語教師派遣事業は、国際交流基金と OBEC との協力事業とし、年間約 10 名の YJT が OBEC 管轄の公立中等学校に派遣される。

派遣先は、OBEC を通して募集を行い、OBEC から候補校の推薦を受けた学校を筆者らバンコク日本文化センターのスタッフが調査し、選定を行う。タイの YJT はタイ人日本語教師とティーム・ティーチング（ひとつのクラスに 2 人で一緒に入る）を行うことが原則となっており、学校にタイ人日本語教師がいることなどが選定基準のひとつとなっている。

YJT の派遣期間は約 10 ヶ月で、タイの新学期開始時期の 5 月に赴任し、3 月の学期末に任期終了帰国となる。

YJT は日本語の授業や活動の時間を通して、日本語教育を行うとともに、日本文化紹介を行い、任地の人々と交流することが期待されている。

1 年目である第 1 期 YJT は、中央部を中心に東部、北部、東北部などに、現在実施中の第 2 期 YJT は、中央部、北部、東北部、南部などに派遣されている。

## 3. インタビュー調査概要

### 3.1 目的

YJT からは業務に対する問題点がしばしば伝えられるものの、受入担当であるタイ人日本語教師から意見を聞く機会はほとんどない。

そこで、第 1 期 YJT が赴任して約 6 ヶ月が経過した時点で、受入担当者へのインタビュー調査を行い、YJT 受入に対する意見や感想を聞き、第 1 期 YJT の残りの業務および第 2 期以降の受入や問題の解決に役立てる。

### 3.2 実施時期

平成 20 年 12 月 - 平成 21 年 1 月

### 3.3 対象者

第 1 期 YJT の派遣先である 8 校の中等学校のタイ人日本語教師 10 名。8 校のうちの 2 校にタイ人日本語教師が 2 名いるため、10 名が対象者となった。

### 3.4 インタビュー方法

質問は、筆者が日本語で質問し、タイ人調整員が通訳するという形をとった。

回答は、基本的にタイ語で行われたが、対象者が日本語で答えられるもの又は答えたいものについては日本語で回答いただいた。タイ語の回答のうち、筆者のタイ語能力から日本語への通訳が必要なもののみタイ人調整員に通訳してもらい、不要なものについては、筆者自ら日本語に訳

した。

タイ人調整員を通訳に入れた目的は、言語能力のために適当な解答を導き出せないことを避けるため、また、タイ語を介することで対象者の緊張感を和らげ、なるべく正直に話をしてもらえるようにするためである。

### 3.5 インタビュー項目

主な項目は次の3つである。(1) YJT 受入時の住居選定やビザ更新等の手続きについて、(2) YJT との業務について、(3) 国際交流基金への要望。

このうち、今回は (2) の YJT との業務についての結果を報告する。

## 4. インタビュー調査結果

### 4.1 YJT とティーム・ティーチングを行っているか

回答：はい9名、いいえ1名

#### 4.1.1 「はい」に対して、ティーム・ティーチングの良い点は何か

- ・ いつも助け合える。授業中、発音を忘れたり、漢字を忘れたりしたときもすぐに教えてもらえる。自信がないときも目で（アイコンタクトで）間違っていないかどうか確かめられる。
- ・ 1人だと自信が持てず不安なことも、ネイティブがいれば確認することができ自信が持てる。
- ・ 前はテープを使っていた発音練習が日本人の生の声を聞いて練習できる。
- ・ 教師2人で会話のモデルを提示できる。
- ・ グループワークのとき、1人だと目が届かないが、2人だと各グループを見ることができる。勉強嫌いの学生などを注意してみることができる。
- ・ 授業中に1人が学生と練習などをしているときに、もう1人が板書するなど、時間を節約できる。1人が何かしている間にもう1人が他の準備ができるので、次のステップに進みやすい。
- ・ YJT が教えてわからないところをタイ人教師がタイ語で説明できる。
- ・ 準備のとき相談できる。
- ・ 授業前の打合せで意見を出し合って、よりよい授業ができる。
- ・ 教材が一緒に作れる。
- ・ 問題点を話し合える。
- ・ 学生の理解が高まる。
- ・ 学生は日本人の先生が好きなので、話したがる。
- ・ 文章の訂正など、ネイティブの利点を生かしてやってもらえる。

#### 4.1.2 「はい」に対して、ティーム・ティーチングの問題点は何か

- ・ 日本人教師はテストの採点が甘いので、読むテストのとき、学生が YJT とテストしたが  
る。
- ・ 漢字のトメやハネなど、自分が習ったときはダメだと言われたことが、YJT はどっちで  
も大丈夫だと学生に説明するので、何が正しいかわからなくなってしまう。
- ・ できない学生は日本人教師の話を聞いて自分で理解しようとせず、タイ人教師のタイ語  
の説明を待ってしまう。
- ・ 授業の準備が大変。最初は 2 人で模擬授業をしなければならない。でも、慣れてくると  
簡単に項目とやり方を確認すればよくなる。だから、できれば同じ先生と長く仕事をし  
たい。
- ・ 授業について話し合う時間が必要になる。

#### 4.1.3 「いいえ」に対して、ティーム・ティーチングをしないのはなぜか

- ・ タイ人がメイン。授業はタイ語で説明。教科書以外の例文をあげるところだけ YJT がや  
る。授業中にわからないところがあれば、YJT に聞く。

#### 4.2 YJT が来たことによって業務内容はどのように変わったか

- ・ 授業の中身がたくさん変わった。例えば、タイ人の先生はたくさん説明することがいい  
と思っているが、YJT の意見は学生自身に考えさせたほうがいいというもので、それは  
いいと思った。
- ・ システムが変わった。2 人で仕事をするには相談が必要なので、やり方を決めなければな  
らない。1 人だと、やり方を決めなくても、自分で考えたとおりにできる。
- ・ 校長や教頭から教務の仕事を頼まれるようになった。
- ・ 仕事の内容は変わらないが、ストレスが増えた。YJT と学生の双方のストレスを溜めな  
いように気を配ることで自分のストレスが溜まる。
- ・ 何も変わらない。

#### 4.3 YJT に関して、校長、教頭、学科長、同僚からどのような要望があるか

- ・ 以前に行った先生のための日本語&日本文化紹介のコースの評判がよかったので、もう  
一度やってほしいとの希望が出ている。
- ・ 同僚は YJT から日本語を習いたいと遠慮している。学校が給料を払っていないため、何  
かお願いするのを申し訳なく思ってしまう。それだけでなく、YJT は放課後、能力試験  
や大学受験のための補講をしているので忙しそう。
- ・ 友好的であってほしい。校長が話しかけても授業の準備が忙しいと言って話そうとしな  
い。不機嫌な雰囲気を漂わせるため、同僚から敬遠されている。ユーモアがあったほう

がいい。

- ・ 要望は特に無い。先生方は YJT をいい先生だと言っている。学生からも人気がある。
- ・ すでに授業と文化紹介をしているので、十分。

#### 4.4 YJT には具体的に何をしてほしいか（何をしてもらっているか）

##### 4.4.1 授業内

- ・ 1 クラス 31 人～42 人おり、教師 1 人では、特にロールプレーなどは全員を見て回ることができないが、2 人いればできるので非常にいい。
- ・ できれば毎回一緒に授業をしたい。2 人いたほうが、多くの学生に目を配れるし、グループ活動もしやすい。
- ・ ドリル練習をしてくれる。文法項目を教えたときにその場で例文を作ってくれる。主教材の「あきこと友だち」で授業をした後、「エリンが挑戦！にほんごできます。」など他の教材の同じ項目で復習してくれる。学生の発音の訂正をしてくれる。
- ・ 教科書以外の例文をあげてもらう。
- ・ 日本文化の紹介。
- ・ YJT は学生の性格を知っていて、学生をよく見ている。
- ・ 黒板に手書きで書くと学生が読めない。学生がわかるような授業をしてほしい。
- ・ 授業に来ない学生が多いと、不満がすぐ顔に出る。来ている学生がかawaiiそう。

##### 4.4.2 授業前

- ・ 次は何を教えるか、どう教えるかをいつも相談している。
- ・ 打合せで役割分担を決める。例えば、タイ人教師がタイ語で文法項目を説明して、YJT がその使い方の例をたくさん出すなど。
- ・ どこからどこまでやるかなど、内容を確認し、宿題もどこを出すかなど相談して決めている。
- ・ YJT が作成したプリントをタイ人教師が確認し、タイ人教師が作成したプリントの表現の間違いなどを YJT が確認し訂正する。
- ・ 配布するプリントのチェック。自信のないところを聞く。
- ・ 授業で使う教材（絵パネル、フラッシュカード、レアリアなど）の準備。
- ・ イベントで使う材料（たこ焼き作りのときはたこ焼きの材料など）の準備。
- ・ 文字カードや絵パネルを作るなど、教材作りをしてほしい。
- ・ タイ人教師のアクセントのチェックや文法の間違いなども指摘してほしい。
- ・ 配布プリントは手書きだと学生が読めないなので、入力したものを用意してほしい
- ・ 職員室で他の先生方と友好的に接してほしい（授業後、授業以外も同様）。

##### 4.4.3 授業後

- ・ 授業でできなかった学生について、どうしてできなかったのかを相談している。
- ・ 学生ができないところがあったら、練習が少なかったのか、例文が少なかったのか、学生の理解が悪いのかなどを話し合っ、もう一度授業で扱うかどうかを相談する。
- ・ 問題が起きたときはすぐに相談する。漢字なども学生がどこの部分をどう間違えたのか相談できる。
- ・ 授業の項目に合わせた簡単なテスト（インタビュー、会話）。
- ・ タイ語をチェックする宿題はタイ人教師、日本語をチェックする宿題は YJT など分担している。
- ・ 作文のチェックは YJT、ディクテーション・練習問題のチェックはタイ人教師など、分担を決めている。
- ・ 作文チェックは日本人がしたほうがいい。教科書通りでない表現が出てきた場合、自分では合っているかどうか分からないときがある。調べていると時間もかかるので日本人にやってもらうといい。

#### 4.4.4 授業以外

- ・ YJT が宿題や漢字をチェックする。その間にタイ人教師は次の授業の準備をする。そして、宿題で同じ間違いが多かった場合など、もう一度学生に説明する必要があるかどうかなどを 2 人で相談し、必要があればタイ人教師からもう一度説明する。また、授業の準備についても、タイ人教師が考えた内容を 2 人で確認し、YJT の意見を参考にいいアイデアがあれば取り入れる。
- ・ たくさん活動をしてくれた。学園祭では、来客者に対し、日本語コースをアピールしなければならなかったが、たこ焼きを焼いたり、日本語で名前を書いたキーホルダーを作ったりして、アピールしてくれた。周囲からはすごく良かったとほめられた。
- ・ 試験問題の作成。
- ・ 試験問題の作成は、日本語だけの問題は YJT が作っている。
- ・ 日本語能力試験および大学入試問題集を取り寄せ、学生に教える。
- ・ 学生が職員室に話しにくるので、会話練習をしてほしい。学生はネイティブと話したがつている。
- ・ 放課後、学生といろいろ日本語で話してほしい。

#### 4.5 YJT にどんな文化紹介をしてほしいか

- ・ 何でも紹介してほしい。活動の時間は YJT が担当している。日本のポップスに興味を持っている学生がいるが、意味を教えるのが難しいので、まだ教えていない。
- ・ 生花をしてほしいが予算がない。また、日本語の学生だけでなく、日本語を勉強していない学生にも折紙を教えてあげたいが、予算がなくてできない。

- ・ YJT はすでにいろいろ紹介しているが、生け花や茶道などの伝統的な日本文化を紹介してほしい。1人でいろいろ紹介するのが無理なら、得意な YJT が各学校を回って披露してほしい。
- ・ 学生が興味のあることを教えてほしい。これまでに、習字、七夕、料理（たこ焼き、タイ風巻き寿司）はやった。カレーライスが学生が作り方を調べて自分たちで作った。グループ毎にお弁当を作り、コンテストをした。
- ・ 料理はやったので、お茶、書道、和菓子を紹介してほしい。前に先生向けに行った日本語&日本文化紹介のコースをまたやりたい。
- ・ 折紙、料理などは活動の時間にもうやった。機会があれば、文化祭などで日本の曲を流しながら出し物をしたい。
- ・ 年賀状の書き方やたこ焼きの作り方を教えてもらった。YJT が持っているものを全て出してくれている。

#### 4.6 YJT が来てよかったことは何か

- ・ タイ人教師としては、授業を手伝ってもらえることが嬉しいし、助けてもらえるので安心。学生にとっては、年齢が近いのでタイ人教師の知らない日本の有名人や歌手などの話しができてとてもいい。学生は YJT から日本の新しい情報を手に入れることができる。
- ・ 日本語がわかる人がそばにいてくれるので、授業中に自信が持てる。いないと誰にも聞けない。1人の授業中、わからないことがあったので、職員室にいる YJT に聞きに行ったこともある。
- ・ 日本人がいるだけでタイ人教師にとって勉強になる。何かわからないことがあると、ネイティブに教えてもらえるのがいい。
- ・ タイ人教師の日本語力が伸びた。間違った例文なども直してもらえる。
- ・ ネイティブからタイ人教師が知りたいことをいろいろ教えてもらえる。
- ・ タイ人教師もネイティブと会話の練習ができる。学生もネイティブから直接日本のことを聞き、話しをすることができる。
- ・ 学生がネイティブスピーカーの発音や日本の文化に直接触れることができる。
- ・ 学生が本当の日本語や日本文化を勉強できる。発音、電話のかけ方、浴衣の着付け他いろいろ。
- ・ 教材寄贈でもらった浴衣やおもちゃなど、YJT がいなかったら、着方や使い方がわからないので、展示するだけで実際に使えなかったと思う。やり方を教えてもらえたのでよかった。
- ・ 宿題チェックを手伝ってくれる。
- ・ タイ人教師が忙しいとき、タイ語で説明する必要がある授業は一人でやってもらえる。

- ・ 学校の予算がないため、イベントの商品は YJT が日本の母親に頼んで送ってもらった煎餅を使った。学生は、YJT がいろいろなことをしてくれていることを知り、勉強を頑張るようになった。
- ・ 他の授業をサボる学生でも、日本語の授業には出てくる。英語の授業数が増えたときは、日本語ならもっと増やしてもいいのに、と学生が言っていた。
- ・ 学生が積極的になった。自然なアクセントを聞き、発音できるようになった。
- ・ 高3の内容は、タイ人教師の能力から考えると非常に教えるのが難しいので、今年は YJT にメインで教えてもらうことができ助かっている。来年 YJT がいなくなるのが心配。
- ・ 日本語を勉強していない学生にも時間のあるときに教えてあげている。
- ・ ドラえもんの歌を学生に教えたとき、一番盛り上がった。他の歌だと、タイ人教師の翻訳力の問題で、歌の内容を理解してもらえないことがあるが、ドラえもんは説明する必要がないからいい。
- ・ 日本語クラスのコースデザインはいいと思う。計画的に授業をしようと頑張っている。ただ、決意が固過ぎて困る。

#### 4.7 YJT に改善してほしいことは何か

- ・ 授業は8時半から始まるが、もしできれば7時半から8時の間くらいに来てほしい。学生が朝宿題を出しに来たり、話をしに来たりするため。でも、YJT が遅刻するというわけではないので、もしできれば。
- ・ 恥ずかしがりやで職員室ではあまり話さない。他の先生は YJT と話したがっているし、タイ語を教えたいと思っている。笑顔であいさつしてくださいと YJT に伝えた。
- ・ 職員室で社交的でない。他の先生や事務員と話さない。仲良くしようという努力がみえない。教師としての態度や対応を身に付けてほしい。気に入らないことがあっても、すぐに表情や態度に表さず我慢してほしい。
- ・ できない学生に対して露骨に不機嫌な表情を表すが、いろいろな学生がいることを理解してほしい。
- ・ 学生ができなくてもあまりシリアスに考えないでほしい。まじめすぎる。学生に多くを期待しすぎ。タイ人教師にも期待しすぎ。
- ・ タイの中等教育機関は活動が非常に多く、そのために授業がつぶれることが多いが、そのことについても YJT は不満を感じているようである。タイの学校を理解する努力をし、現実を受け入れてほしい。
- ・ タイの文化、タイの学校のやり方を理解してほしい。急にスケジュールが変わることもある。教育省から突然「明日は休みにするように」と連絡が来ることもある。あまり驚き過ぎないでほしい。

- ・ 学生に対してタイ語を使わないでほしい。
- ・ 学生に話すときに、助詞を強調したり、わかりやすく区切って発音したりしているが、学生が真似をするので自然に話すように心がけてほしい。一方で、聞き取りやすくていいということも事実だが。
- ・ 授業以外でも学生と話す時間を増やしてほしい。
- ・ YJT があまり教科書を使わないため、黒板の手書きが多くなり、学生が読めない。そのため学生が授業に参加したらない。

#### 4.8 YJT の業務にはどんな問題があるか

- ・ いつも話し合っているので問題ない。逆に、タイ人教師の方が忙しくてゆっくり打合せする時間がないのが問題。
- ・ YJT が病気やセミナーで学校を休むと困る。わからないところを聞くことができないので。
- ・ ローマ字で振り仮名を振らないと平仮名を読めない学生が多いが、YJT が黒板に平仮名をたくさん書くため、学生から苦情が出た。
- ・ きちんと教えようという決意が強すぎる。理系は成績のいい学生が多いが、文系は成績があまりよくない学生が集まっている。YJT の期待と実際が合っていないので、学生に合わせた授業をしてほしい。

### 5. 考察

今回のインタビュー調査では、10 名中 9 名のタイ人教師がティーム・ティーチングを行っているとおり、そのほとんどが YJT と授業前の打合せをしていると回答している。また、複数のタイ人教師が YJT がいるだけで不安の解消につながり、存在そのものが有益と考えている。YJT の多くが、授業の打合せができない、授業中の役割が少ないなどの理由で、ティーム・ティーチングが機能していないと考えているのとは反対の結果が出た。

また、YJT が重視していない部分で、タイ人教師が YJT に対して改善を求めている点がいくつかあった。職員室で社交的な態度を取ってほしい、学生の学習成果が見られない場合でも厳しくしないでほしい、タイの文化を理解する努力をしてほしい、などである。急なスケジュールの変更で授業数が減ることに不満を持つ YJT が多いが、タイ人教師からすると、YJT はタイの文化やタイの学校を理解していないと捉えられているようである。

### 6. まとめ

YJT に限らず日本人教師全般に言えることだが、日本人教師の存在がタイ人教師に必要とされていることを認識し、自信を持って業務を行うことが大切であろう。その上で、日本人はタイの

文化や学校制度を理解し、受入れる努力をする必要がある。また、職員室で社交的な態度を取ることも重要である。授業の準備が忙しいことは理解できるが、タイ人日本語教師だけでなく、その他の同僚に対しても社交的であるよう心がける必要がある。さらに、いい授業をしなければならない、成果をあげなければならない、といった、日本人にとっては正しい考えが、タイ人教師との間に溝を作る結果になっている可能性があることを認識し、自分の考えを押し付けないように努力する必要がある。

そういった努力をしながら、タイ人教師に対して、ネイティブとノンネイティブ教師の長所と短所、打合せに必要な項目、授業の前中後における具体的な活動例を提示するなどして、互いの長所を生かした授業ができるように導いていくことが大切ではないだろうか。

#### 参考文献

国際交流基金（2007）『エリンが挑戦！にほんごできます。』、凡人社

国際交流基金（2004）『日本語 あきこと友だち』、紀伊國屋書店（タイランド）